



老人クラブは頑張っています

町老人クラブ連合会長 押 尾 光 雄

豊かな体力づくりをめざします。

抵抗があるのかも知れませんが、未加入の方の理解を求め、積極的に加入促進を図っていく計画です。

私は、4代目の連合会長として、組織の円滑な運営に努力しております。

昭和41年10月の発足以来、年々会員数が増加し、現在は単位老人クラブ数が28、クラブ会員数も1,500人に達しています。しかし、60歳以上の老齢人口約2,500人に対して、64%の加入率にとどまっている現状です。やはり「老人」という言葉に

長寿おめでとう

90歳以上は—24人

横芝町・長寿番付

(8月15日現在)
敬称略

東		西	
川口	たつさくしな明治	(老人ホーム) (新島荒場)	98 94
伊藤	しな明治	(小栗)(木栗)	94 93
伊藤	よみづら	(上東)(東立)	93 92
布施	よみづら	(老人ホーム)	91
鈴木	よみづら	(古川)	90
寺本	よみづら	(立会)	90
内田	よみづら	(古川)	90
椎名	よみづら		90
石橋	よみづら		90
鈴木	よみづら		90
実木	よみづら		90
鈴木	よみづら		90
		横大閥	94
		綱関	94
		協結	93
		頭前	2
		3	3
		4	4
		5	5
		6	6
		7	7
		8	8

〈太字は男性です〉

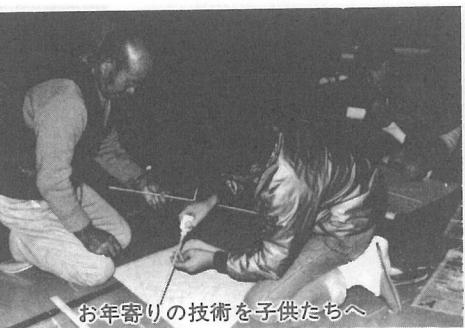


人生に定年なし

— お年寄りの生きがいを考える —

こんな話があります。——畑仕事が楽しみで、家族に新鮮な野菜を食べさせるのを、何よりも生きがいとしていたおじいさんがいました。その息子さんは、おじいさんの体を心配して、少しのんびりしてもらおうと、野菜作りを禁じてしました。

おじいさんは、それ以降部屋に引きこもりがちになって、持病も再発してしまったそうです。——これほど極端ではないにしても、再発してしまったそうです。



「お年寄りに対する思いやり」が、かえって「生きがいを奪う」結果を招く場合が、往々にしてあります。

でも、「お年寄りに対する思いやり」が、かえって「生きがいを奪う」結果を招く場合が、往々にしてあります。

「意欲を失う」ことは、急速に老化を進めます。お年寄りの生きがいを考えるとき、私たちが心すべきことは、「積極的に生きようとする意欲を奪ってはならない」——ということです。

人生に定年はないのですから。

貴重な財産 — 知恵と経験 —

長い人生を生き抜いてきたお年寄りには「知恵と経験」といって、何にも代えがたい財産があ

ります。
経験に裏打ちされた思慮深さや、冷静にものごとを見極める力——これら、お年寄りならではの持ち味や特徴を、家庭や地域社会でもっと役立てほしいものです。そのためにはお年寄りばかりでなく、お年寄りを囲む家庭や、近隣の人々の努力も必要です。

家庭や社会で役割を見つけ、伸び伸びと行動できることこそ、お年寄りの生きがいにつながるのではないか。

お年寄りの生きがいにつながるのではありません。お年寄りの生きがいにつながるのではありません。